



L

- リンク (RLM) (2 ページ)
- リスポート (SIP) (4 ページ)
- listen-port (tenant) (6 ページ)
- lmr duplex half (9 ページ)
- lmr e-lead (10 ページ)
- lmr ip-vad (12 ページ)
- lmr led-on (14 ページ)
- lmr m-lead (15 ページ)
- 負荷分散 (17 ページ)
- ローカル (19 ページ)
- ローカルホスト (21 ページ)
- ループバック (コントローラー) (24 ページ)
- ループ検出 (26 ページ)
- loss-plan (27 ページ)
- lrq e164 early-lookup (29 ページ)
- lrq forward-queries (30 ページ)
- lrq lrj immediate-advance (33 ページ)
- lrq reject-resource-low (35 ページ)
- lrq reject-unknown-circuit (36 ページ)
- lrq reject-unknown-prefix (37 ページ)
- lrq timeout blast window (39 ページ)
- Lrq タイムアウト シーケンス遅延 (40 ページ)

リンク (RLM)

冗長リンクマネージャ (RLM) リンクを有効にするには、RLM 設定モードで **link** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

リンク {ホスト名 *name* | アドレス *IP* アドレス} ソースループバック ソース **重み** 要因

いいえリンク {ホスト名 *name* | アドレス *IP* アドレス} ソースループバック ソース **weightfactor**

構文の説明	パラメータ	説明
	hostname <i>name</i>	RLM ホスト名です。ホスト名が使用されている場合、RLM は DNS サーバを定期的に検索して、構成されたホスト名を探します。これは、検索に成功するか、構成が削除されるまで続きます。
	address <i>ip-address</i>	リンクの IP アドレス
	source <i>loopback-source</i>	ループバック インターフェイスのソース。ループバック インターフェイスをソースとして使用して、ハードウェアの状態に依存しないようにすることを推奨します。また、同じルーティングパスにフォールバックしないように、ソース インターフェイスはすべてのリンクで異なる必要があります。フェイルオーバーに同じルーティングパスを使用する場合、それを実装するには単一のリンクで十分です。
	weight <i>factor</i>	リンクの優先度を設定する任意の番号です。割り当てられた重み要素の番号が大きいほど、アクティブリンクになるための優先順位が高くなります。すべてのエントリに同じ加重ファクタが割り当てられている場合、すべてのリンクは同等に扱われます。指定された時点で1つのサーバだけが接続要求を受け入れるという想定に従って、サーバ間に優先順位はありません。そうでない場合、優先順位はすべてのサーバに拡張されます。

コマンド デフォルト Disabled

コマンド モード

RLM の設定

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(7)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、優先度が重み付けされた複数エントリコマンドです。同一サーバ内の場合、リンクの優先度は重みで指定されます。

例

以下の例では、RLM グループ (ネットワーク アクセス サーバ)、デバイス名、リンクアドレス、およびそれらの重み付けの優先度を指定しています。

```
rlm group 1
server rl-server
link address 10.1.4.1 source Loopback1 weight 4
link address 10.1.4.2 source Loopback2 weight 3
```

リッスンポート (SIP)

SIP プロトコルに使用されるリッスンポートを設定するには、**listen-port** コマンドを音声サービス voip/sip 構成モードで使用します。使用するポートをデフォルト値にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

リッスンポート [非セキュア | 安全な] ポート番号
no listen-port [非セキュア | 安全な]

構文の説明	secure	TLS ポート値を指定します。
	非セキュア	TCP/UDP ポート値を指定します。
	ポート番号	ポート番号。範囲：1-65535。UDP/TCP のデフォルトは 5060 です。TLS のデフォルトは 5061 です。

コマンド デフォルト ポート番号は、使用されるトランスポート層プロトコルに基づいたデフォルト値に設定されます。

コマンドモード

SIP 構成モード (config-serv-sip)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(15)XY	このコマンドが導入されました。
12.4(20)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。

使用上のガイドライン

listen-port コマンドは着信 SIP 通話で設定することができ、TDM-IP ゲートウェイと CUBE (IPIPGWの日本語訳) の両方に適用できます。グローバル設定で定義された CUBE ゲートウェイポート番号が受信ログに使用されます。TCP/UDP/TLS の SIP リッスンポートを設定する前に、SIP 設定モードで [シャットダウン] を使用して SIP サービスをシャットダウンする必要があります。SIP サービスがシャットダウンされていない場合、**listen-port** コマンドを実行すると、「SIP リッスンポートを変更する前に SIP サービスをシャットダウンしてください」というエラーメッセージが点滅します。これにより、SIP リッスンポートが変更されたときにアクティブな通話がないことが保証されます。**非セキュア** キーワードはイメージでサポートされ、**セキュア** および **非セキュア** キーワードは暗号イメージでサポートされます。

次の制約事項が適用されます。

- ダイヤルピアベースの SIP リッスンポートの設定はサポートされていません。
- UDP/TCP と TLS の両方に同じリスニングポートを設定することはできません。

- すでに使用されているポートへの SIP リッスンポートの設定はサポートされていないため、エラーメッセージが表示されます。
- トランスポート サービス (TCP/UDP/TLS) がシャットダウンしているときに SIP リッスンポートを変更すると、ポートを閉じたり再度開いたりすることはできません。その結果、新しいポート番号のみが更新されます。新しいポートは、トランスポート サービス (TCP/UDP/TLS) が有効になったときにバインドされます。

例

以下の例は、暗号イメージのポート番号がポート 2000 に変更される例を示しています。

```
Router(config-serv-sip)# listen-port secure 2000
```

次の例では、ポート番号が TLS デフォルトポートにリセットされます。

```
Router(config-serv-sip)# no listen-port
```

関連コマンド

コマンド	説明
シャットダウン	ポートを無効にします。

listen-port (tenant)

テナント構成で特定の SIP リッスンポートを設定するには、音声クラステナント構成モードで **listen-port** コマンドを使用します。デフォルトでは、テナントレベルのリッスンポートは設定されておらず、グローバルレベルの SIP リッスンポートが使用されます。テナントレベルのリッスンポートを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

セキュア RTP {**secure** ポート番号 | **non-secure** ポート番号}
no listen-port {**secure** ポート番号 | **非セキュア** ポート番号}

構文の説明

secure	TLS ポート値を指定します。
非セキュア	指定された TCP/UDP ポート値。
ポート番号	<ul style="list-style-type: none"> 安全なポート番号の範囲: 1～65535。 非セキュアポート番号の範囲: 5000～5500。 <p>(注) UDP トランスポートを使用する RTP メディアポートとの競合を避けるために、ポート範囲が制限されます。</p>

コマンド デフォルト

ポート番号は既定値に設定されません。

コマンド モード

ボイスクラステナント構成モード

コマンド履歴

リリース	変更
Cisco IOS XE Cupertino 17.8.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

この機能が導入される前は、グローバルレベルで SIP シグナリングのリッスンポートを設定することしかできませんでした (「[listen-port \(SIP\)](#)」を参照)。この値を変更するには、コール処理サービスを一度停止させる必要がありました。テナント構成内でセキュアおよび非セキュアの両方のトラフィックのリッスンポートを指定できるようになりました。これにより、SIP トランクをより柔軟に選択できます。テナントのリッスンポートは、関連付けられたトランクにアクティブな通話がない場合に、呼処理サービスをシャットダウンすることなく変更できます。リッスンポートの構成が削除されると、ポートに関連付けられているすべてのアクティブな接続が閉じられます。

コール処理の信頼性を高めるには、シグナリングおよびメディアインターフェイスバインディングが、リッスンポートを含むすべてのテナントに対して設定されていること、さらにインターフェイスバインディング (VRF および IP アドレス) とリッスンポートの組み合わせが、すべてのテナントとグローバル設定で一意であることを確認します。

例

以下は **listen-portsecure** の設定例です。

```
Router(config)#voice class tenant 1
VOICECLASS configuration commands:
aaa                sip-ua AAA related configuration
authentication     Digest Authentication Configuration
credentials        User credentials for registration
...
...
listen-port        Configure UDP/TCP/TLS SIP listen port (have bind
                  configured under this tenant for the config to take
                  effect)
...

Router(config-class)#listen-port ?
non-secure Change UDP/TCP SIP listen port (have bind configured under this
            tenant for the config to take effect)
secure     Change TLS SIP listen port (have bind configured under this
            tenant for the config to take effect)

Router(config-class)#listen-port secure ?
<0-65535> Port-number

Router(config-class)#listen-port secure 5062
```

以下は **listen-portnon-secure** の設定例です。

```
Router(config)#voice class tenant 1
VOICECLASS configuration commands:
aaa                sip-ua AAA related configuration
authentication     Digest Authentication Configuration
credentials        User credentials for registration
...
...
listen-port        Configure UDP/TCP/TLS SIP listen port (have bind
                  configured under this tenant for the config to take
                  effect)
...

Router(config-class)#listen-port ?
non-secure Change UDP/TCP SIP listen port (have bind configured under this
            tenant for the config to take effect)
secure     Change TLS SIP listen port (have bind configured under this
            tenant for the config to take effect)

Router(config-class)#listen-port non-secure ?
<5000-5500> Port-number

Router(config-class)#listen-port non-secure 5404
```

nolisten-port の設定例を次に示します:

```
Router(config-class)# no listen-port ?
non-secure Change UDP/TCP SIP listen port (have bind configured under this
            tenant for the config to take effect)
secure     Change TLS SIP listen port (have bind configured under this
            tenant for the config to take effect)

Router(config-class)#no listen-port secure ?
<0-65535> Port-number

Router(config-class)#no listen-port secure
```

関連コマンド

コマンド	説明
call service stop	CUBEに SIP サービスをシャットダウンします。
バインド	シグナリングおよびメディア パケットのソース アドレスを特定のインターフェイスの IPv4 または IPv6 アドレスにバインドします。

lmr duplex half

ボイスポートの音声パスを半二重モードで動作させるには、**lmrデュプレックスハーフ** コマンドを使用します。ボイスポート設定モード。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lmrduplexhalf

いいえlmrduplexhalf

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

全二重モード

コマンド モード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
12.3(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン

無線システムが無線から音声トラフィックを受信しているときに、音声パスを半二重モードで動作させることで、スピーカーが中断されたり、音声ストリームが自分自身にフィードバックされることを防ぎます。

例

次の例では、Cisco 3700 シリーズルータの音声ポート 1/0/0 の音声パスは、半二重モードで動作するように設定されています。

```
voice-port 1/0/0
 lmr duplex half
```

lmr e-lead

ルーターの口耳 (E&M) 音声ポートと接続されている地上移動無線 (LMR) 端末間の信号で E リード線の使用を定義するには、**lmre-lead** コマンドを音声ポート設定モードに設定します。E リード線をデフォルトの使用に戻すには、このコマンドの **no** フォームを使用します。

lmre-lead {inactive | seize | voice}

いいえ **lmre-lead** {inactive | seize | voice}

構文の説明

非アクティブ	ルーターが LMR デバイスの E 線を介してシーズ信号を送信しないよう指定します。ルーターが音声パケットを LMR デバイスに送信します。
seize	PLAR およびマルチキャスト接続で、LMR ポートが接続されている場合に、ルーターが E 線上でシーズ信号を送信し、LMR ポートが VoIP 接続に関与していない場合、E 線からシーズ信号を削除することを指定します。これはデフォルトです。 接続トランク接続の場合、LMR ポートが接続されているときに、ルーターがシーズ信号を送信しないよう指定します。代わりに、トランク接続がアップ状態の場合、遠端ルーターからの M 線型信号は近端ルーターの E 線型信号として伝えられます。M 線が遠端ルーターでドロップされ、トランク接続がまだアップ状態の場合、E 線は近端ルーターでドロップされます。
音声	ネットワークから音声パケットを受信した場合にのみ、ルーターが E 線引出線でシーズ信号を送信することを指定します。ネットワーク上でパケットが検出されない場合、E 線からシーズ信号が削除されます。

コマンド デフォルト

seize

コマンド モード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
12.3(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン

lmre-lead コマンドは、そのポートの信号タイプが LMR である場合にのみ、E&M 音声ポートに影響を与えます。**lmre-lead** コマンドは、接続されている LMR 端末が E-lead 制御下で動作している場合にのみ有効です。専用線、自動呼び出し音ダウン (PLAR) 接続を使用する場合、**lmre-lead** コマンドを使用して音声ポートを設定します。E 線は LMR システムのプッシュトゥーク (PTT) に接続します。

例

次の例では、Cisco 3745 の E&M 音声ポートから接続されている LMR 無線システムへのパケット送信が無効になっています。

```
lmr e-lead inactive
```

関連コマンド

コマンド	説明
lmm-lead	ルーターの E&M 音声ポートと接続されている LMR デバイス間のシグナリングでの M リード線の使用を定義します。

lmr ip-vad

Cisco 2800 シリーズ統合型サービス ルーターの地上移動無線 (LMR) デジタル シグナル プロセッサ (DSP) を設定して、パケットに音声エネルギーが含まれる場合にのみ、音声パケットの到着イベントを報告するようにするには、音声ポート設定モードで **lmrip-vad** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lmrip-vad

いいえ lmrip-vad

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

IP ネットワーク側から音声パケットを受信すると、DSP はその都度、音声パケット到着イベントを Cisco IOS ソフトウェアに報告します。

コマンド モード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(6)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

lmrip-vad コマンドは、Cisco 2800 シリーズ統合型サービスルーターの音声インターフェイスカード (VIC) が次のいずれかである場合に、その VIC に適用されます。以下のタイプの耳と口 (E&M) インタフェースに対応します。

- VIC2-2E/M 信号タイプ LMR 付き
- E1 または T1 コントローラー下で信号タイプ **e&m-lmr** で作成された **ds0-group**

lmrip-vad コマンドは、Cisco 2800 シリーズの統合サービスルーターでサポートされる音声インターフェイスに対して、音声パケットの到着イベントではなく、音声活動検出 (VAD) のステータス変更イベントを報告するように LMR DSP を設定します。

例

次の例は、音声ポートを設定するために使用できる一連のコマンドです。これにより、パケットに音声エネルギーが含まれている場合にのみ、音声パケット着信イベントがルーターの Cisco IOS ソフトウェアに報告されます。

```
Router(config)# voice-port 1/1/0
Router(config-voiceport)# signal lmr
Router(config-voiceport)# lmr ip-vad
```

関連コマンド

コマンド	説明
信号	音声ポートに使用されるシグナリングのタイプを設定します。
音声ポート	音声ポート設定モードを開始します。

lmr led-on

耳と口(E&M) LED を使用して E 線および M 線のステータスを示すには、音声ポート設定モードで **lmrled-on** コマンドを入力します。E&M LED をデフォルトの使用に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lmrled-on

いいえ **lmrled-on**

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

E&M LED は音声ポートのアクティビティのみを示します。

コマンド モード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
12.3(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン

lmrled-on コマンドを E&M 音声ポートで使用できるのは、ポートの信号タイプが地上移動無線 (LMR) の場合だけです。このコマンドにより、E&M LED を使用して、E リード線および M リード線のステータスを次のように示すことができます。

- 赤--E-リードがアクティブ
- 緑--M-リードがアクティブ
- 黄--E-リードおよびM-リードの両方がアクティブ

E&M LED のデフォルトの動作では、音声ポートでアクティビティがある場合に点灯し、アクティビティがない場合にオフになります。

例

次の例では、E&M LED を使用して E リードと M リードの状況を示します。

```
voice-port 1/0/0
 lmr led-on
```

lrm m-lead

ルーターの耳と口の (E&M) 音声ポートと接続された地上移動無線 (LMR) 端末間の信号で M 線引出線の使用を定義するには、**lrm m-lead** コマンドを音声ポート設定モードに設定します。M-lead の使用をデフォルトに戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lrm m-lead {無効な | 音声ゲートイン | ダイヤルイン}
 いいえ **lrm m-lead** {inactive | audio-gate-in | dialin}

構文の説明	
	inactive ルーターは、M 線で音声によって送信される信号を無視します。音声パケットのフローは、音声アクティビティ検出 (VAD) によって決定されます。ルーターは LMR デバイスから受信した音声を送信します。これはデフォルトです。
	audio-gate-in M 線で捕捉信号が検出されると、ルータは VoIP パケットを生成します。捕捉信号が M 線リードから削除されると、ルータは VoIP パケットの生成を停止します。
	dialin LMR デバイスが VoIP 接続に関与していない場合、M 線で検出された最初の捕捉信号により、ルーターが VoIP 接続をセットアップするようトリガーされます。接続が確立されると、ルーターは音声ゲートインオプションと同様に動作します。

コマンドデフォルト 非アクティブ

コマンドモード 音声ポートの構成

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(4)XD	このコマンドが導入されました。
	12.3(7)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.3(7)T に統合されました。

使用上のガイドライン **lrm m-lead** コマンドは、そのポートの信号タイプが LMR である場合にのみ、E&M 音声ポートに影響を与えます。**lmre-lead** コマンドは、接続されている LMR 端末が M-lead 制御下で動作している場合にのみ有効です。M リード線は、LMR システムのキャリア型リレー (COR) に対応し、LMR システムでの受信アクティビティを示します。

例

次の例では、Cisco 3745 の E&M 音声ポートに接続された LMR 無線システムは、まず E リード線を上げ、次に送信することによって、音声を送信できます。

```
lrm m-lead dialin
```

関連コマンド

コマンド	説明
lmre-lead	ルーターの E&M 音声ポートと接続されている LMR デバイス間のシグナリングでの E リード線の使用を定義します。

負荷分散

負荷分散を設定するには、**ゲートキーパー設定モード**で負荷分散コマンドを使用します。負荷分散を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

負荷分散[エンドポイント *max-endpoints*][通話 *max-calls*][CPU *max-cpu*][メモリ *max-em-used*]
 いいえ負荷分散[エンドポイント *max-endpoints*][通話 *max-calls*][CPU *max-cpu*][メモリ *max-mem-used*]

構文の説明	endpoints <i>max-endpoints</i>	(オプション) エンドポイントの最大数。
	calls <i>max-calls</i>	(オプション) 最大通話数です。
	cpu <i>max-cpu</i>	(オプション) CPU使用率の最大パーセンテージ。
	memory <i>max-mem-used</i>	(オプション) 使用メモリの最大パーセンテージ。

コマンド デフォルト ロードバランシングはゲートキーパーにより実行されます。

コマンド モード ゲートキーパーの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1(2)XM	このコマンドが導入されました。
	12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合されました。
	12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン 負荷分散は、1つのゲートキーパーがデフォルトまたは設定された負荷レベルに達すると発生します。負荷レベルのしきい値に達すると、ゲートキーパーは、登録、承認、ステータス (RAS) メッセージで代替ゲートキーパー情報の送信を開始し、ゲートウェイは、負荷がかかっているゲートキーパーから最も混雑していない代替ゲートキーパーへの移行を試みます。この移動は永久的です。エンドポイントは、元のゲートウェイが安定しても、積極的に元のゲートウェイに戻されることはありません。ただし、新しいゲートウェイが負荷しきい値に達した場合、再度転送される場合があります。ゲートウェイは負荷を分担しますが、均等に分担しない場合があります。負荷分散のプロセスにより、より効果的なゾーン管理が可能になります。

例 次の例はロードバランシングの設定方法を示しています。

```
load-balance endpoints 200 calls 100 cpu 75 memory 80
```

関連コマンド

コマンド	説明
zoneclusterlocal	各ゾーンの代替ゲートキーパーを設定します。

ローカル

IPアドレスとポートを含む、境界要素 (BE) がリモート BE との対話に使用する必要があるローカルドメインを定義するには、Annex G 設定モードで **local** コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ローカル **ip/IP** アドレス [**port** ローカルポート]
 いいえローカル IP

構文の説明

IP IP-アドレス	ローカル境界要素の IP アドレス。
port local-port	(オプション) 附属書 G メッセージの交換に使用されるローカルボーダーエレメントのポート番号。デフォルトは 2099 です。

コマンド デフォルト

ポート番号: 2099

コマンド モード

アネックスGの構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。このコマンドは、このリリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 をサポートしていません。
12.2(2)XB1	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(11)T に統合されました。

使用上のガイドライン

ローカル IP アドレスは、高い信頼性と可用性のための仮想ホットスタンバイ ルーティング プロトコル (HSRP) アドレスにできます。複数のゲートキーパーと BE を同様に設定し、HSRP を使用してプライマリ BE と他のスタンバイ BE を指定できます。プライマリ BE がダウンすると、スタンバイ BE が代わりに動作します。

例

次の例では、BE が使用する IP アドレスとポートを設定します。(この例では非標準のポート番号を使用していることに注意してください。非標準のポート番号を使用しない場合は、デフォルト値の 2099 を使用してください。)

```
Router(config)# call-router h323-annexg be20
Router(config-annexg)# local ip 121.90.10.80 port 2010
```

関連コマンド

コマンド	説明
call-router	附属書 G の border 要素設定コマンドを有効にします。
showcall-routerstatus	Annex G BE ステータスを表示します。

ローカルホスト

Cisco IOS 音声ゲートウェイ、Cisco Unified BorderElement (Cisco UBE)、または Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) をグローバルに構成して、物理 IP の代わりにローカルホスト名として、Domain Name System (DNS) ホスト名またはドメインを置換するには、送信メッセージの From、Call-ID、Remote-Party-ID ヘッダーのアドレス、音声サービス SIP コンフィギュレーションモードまたは音声クラステナントコンフィギュレーションモードで、**localhost** コマンドを使用します。DNS ローカルホスト名を削除し、物理 IP アドレスの置換を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

localhost dns:[ホスト名。]ドメイン[preferred]

いいえローカルホスト

構文の説明

dns: [ホスト名.]ドメイン	<p>発信の From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダーの主権者部分で使用される物理 IP アドレスの代わりに DNS ドメイン (特定のホスト名を持つ、または持たないドメイン名で構成される) を表す英数字値です。</p> <p>この値には、ピリオドで区切られたホスト名とドメイン (dns:hostname.domain)、またはドメイン名だけ (dns:domain) を指定できます。どちらの場合でも、dns: デリミタを最初の 4 文字に含める必要があります。</p>
preferred	(オプション) 指定した DNS ホスト名を優先します。

コマンド デフォルト

発信ダイヤルピアの物理 IP アドレスは、発信メッセージの From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダーのホスト部分で送信されます。

コマンド モード

音声サービス SIP 構成 (conf-serv-sip)

音声クラス テナント構成 (config-class)。

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(2)T	このコマンドが導入されました。
15.0(1)XA	このコマンドは変更されました。複数のレジストラが SIP トランクに設定されている場合に、優先ローカルホストを指定する preferred キーワードが追加されました。
IOS リリース XE 2.5	このコマンドが Cisco IOS XE Release 2.5 に統合されました。
15.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 5.1(1)T に統合されました。
15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドが音声クラステナントで利用できるようになりました。

リリース	変更
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

音声サービス SIP 構成モードで **localhost** コマンドを使用して、DNS ローカルホスト名をグローバルに設定します。これは、Cisco IOS 音声ゲートウェイ、Cisco UBE、または Cisco Unified CME の送信メッセージの From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダーで物理 IP アドレスの代わりに使用されます。複数のレジストラを設定する場合、**localhostpreferred** コマンドを使用して、優先ホストを指定することができます。

グローバル設定を上書きし、特定のダイヤルピアに DNS localhost 置換設定を指定するには、**voice-classsiplocalhost** コマンドをダイヤルピア音声構成モードで使用します。グローバルに設定された DNS ローカルホスト名を削除し、送信メッセージの From、Call-ID、Remote-Party-ID ヘッダーで物理 IP アドレスを使用するには、**nolocalhost** コマンドを実行します。

例

次の例では、すべてのダイヤルピア上の発信メッセージで、物理 IP アドレスの代わりに、ドメインのみを使用して、優先 DNS ローカルホスト名をグローバルに設定する方法を示します。

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# voicesservicevoip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# localhost dns:example.com preferred
```

次の例では、すべてのダイヤルピア上の発信メッセージで、物理 IP アドレスの代わりに使用するドメインと共にホスト名を指定することで、優先 DNS ローカルホスト名をグローバルに設定する方法を示します。

```
Router> enable
Router# configureterminal
Router(config)# voicesservicevoip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# localhost dns:MyHostname.example.com preferred
```

関連コマンド

コマンド	説明
authentication(dialpeer)	個々のダイヤルピアで SIP ダイジェスト認証を有効にします。
authentication(SIPUA)	SIP ダイジェスト認証を有効にする
資格情報(SIPUA)	UP 状態の時に SIP 登録メッセージを送信するように Cisco UBE を設定します。
レジストラ	Cisco IOS SIP ゲートウェイが FXS、EFSX、SCCP 電話の代わりに E.164 番号を外部 SIP プロキシまたは SIP レジストラに登録できるようにします。

コマンド	説明
voice-classiplocalhost	個々のダイヤルピア上の送信メッセージの From、Call-ID、および Remote-Party-ID ヘッダーの物理 IP アドレスの代わりに DNS ローカルホスト名を指定して、グローバル設定を上書きするための設定を構成します。

ループバック (コントローラー)

T1 または E1 インターフェイスのテストにループバック方法を設定するには、コントローラ設定モードで **ループバック** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ループバック {**診断** | **ローカル** {**ペイロード** | **行**} | **リモート** {**v54チャンネルグループ** **チャンネル番号** | **iboc** | **esf** {**payload** | **line**}}}
いいえループバック

構文の説明

診断	発信送信信号を受信信号にループバックします。
ローカル	インターフェイスをローカルループバックモードにします。
ペイロード	インターフェイスをペイロードレベルで外部ループバックモードにします。
回線	インターフェイスを回線レベルで外部ループバックモードにします。
リモート	接続のローカルエンドをリモートループバックモードに維持します。
v54channel-group	リモートエンドで V.54 チャンネルグループループバックをアクティブにします。T1 と E1 の両方の設備で利用できます。
<i>channel-number</i>	V.54 チャンネルグループループバックのチャンネル番号。範囲は 0 から 1 です。
iboc	帯域内ビット指向コードを遠端に送信し、回線ループバックにします。
esf	Extended Super Frame (ESF) の T1 または E1 フレームタイプ。ESF がコントローラで構成されている場合、T1 または E1 コントローラでのみ利用できます。キーワードは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • payload -- 機能データリンク (FDL) コードを送信することで、リモートペイロードループバックを有効にします。FDL は ESF の 4-kbps アウトオブバンドシグナリングチャンネルです。 • line -- FDL コードを送信してリモート回線ループバックを有効にします。

コマンド デフォルト

ループバックが設定されていません。

コマンド モード

コントローラの構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 のコントローラ設定コマンドとして追加されました。

リリース	変更
12.0(5)T および 12.0(5)XK	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに、ATM インターフェイス設定コマンドとして追加されました。
12.0(5)XE	このコマンドが、Cisco 7200 シリーズおよび Cisco 7500 シリーズに、ATM インターフェイス設定コマンドとして追加されました。
12.0(5)XK および 12.0(7)T	このコマンドが、Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズのコントローラ設定コマンドとして導入されました。
12.1(1)T	このコマンドは、Cisco 2600 シリーズのコントローラ設定コマンドとして変更されました。

使用上のガイドライン

回線のループバックテストを使用して、回線およびチャネルサービスユニット/デジタルサービスユニット (CSU/DSU) またはインターフェイスのいずれかによって引き起こされる機器の誤動作を検出し、区別することができます。インターフェイスがループバックモードの時に正確なデータ転送ができない場合、そのインターフェイスに問題があります。

例

次の例では、コントローラ T1 0/0 で診断ループバック方法を設定します。

```
controller t1 0/0
  loopback diagnostic
```

次の例では、コントローラ E1 0/0 でペイロードループバック方法を設定します。

```
controller e1 0/0
  loopback local payload
```

ループ検出

T1 のループ検出を有効にするには、コントローラ設定モードで **ループ-detect** コマンドを使用します。ループ検出をキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ループ検出
いいえループ検出

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

ループ検出が無効になっています。

コマンド モード

コントローラの構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドがCiscoMC3810に導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、Voice over Frame Relay および Voice over ATM に適用されます。

例

次の例では、コントローラー T1 0 のループ検出を設定します。

```
controller t1 0
 loop-detect
```

関連コマンド

コマンド	説明
ループバック(インタフェース)	インターフェイスとデバイス間での機器の誤動作を診断します。

loss-plan

アナログ外国交換局 (FXO) または外国交換局 (FXS) 音声ポートのアナログ-デジタル ゲイン オフセットを指定するには、音声ポート設定モードで **損失プラン** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

損失プラン {**plan1** | **plan2** | **plan3** | **plan4** | **plan5** | **plan6** | **plan7** | **plan8** | **plan9**}
 いいえ損失プラン

構文の説明

プラン 1	FXO: A-D ゲイン = 0 デシベル、D-A ゲイン = 0 デシベル。FXS: A-D ゲイン = -3 デシベル、D-A ゲイン = -3 デシベル。
plan2	FXO: A-D ゲイン = 3 デシベル、D-A ゲイン = 0 デシベル。FXS: A-D ゲイン = 0 デシベル、D-A ゲイン = -3 デシベル。
plan3	FXO: A-D ゲイン = -3 デシベル、D-A ゲイン = 0 デシベル。FXS: 該当なし。
plan4	FXO: A-D ゲイン = -3 デシベル、D-A ゲイン = -3 デシベル。FXS: 該当なし。
プラン 5	FXO: 該当なし。FXS: A-D ゲイン = -3 デシベル、D-A ゲイン = -10 デシベル。
プラン 6	FXO: 該当なし。FXS: A-D ゲイン = 0 デシベル、D-A ゲイン = -7 デシベル。
plan7	FXO: A-D ゲイン = 7 デシベル、D-A ゲイン = 0 デシベル。FXS: A-D ゲイン = 0 デシベル、D-A ゲイン = -6 デシベル。
plan8	FXO: A-D ゲイン = 5 デシベル、D-A ゲイン = -2 デシベル。FXS: 該当なし。
plan9	FXO: A-D ゲイン = 6 デシベル、D-A ゲイン = 0 デシベル。FXS: 該当なし。

コマンド デフォルト

FXO: A-D ゲイン = 0 デシベル、D-A ゲイン = 0 デシベル (損失プラン 1) FXS: A-D ゲイン = -3 デシベル、D-A ゲイン = -3 デシベル (損失プラン 1)

コマンド モード

音声ポートの構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(1)MA	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.0(7)XK	信号レベルの選択肢として Plan 3、Plan 4、Plan 8、Plan 9 が追加されました。
12.1(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(2)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、アナログ音声ポートとデジタルシグナルプロセッサ (DSP) 間のアナログ信号レベルの差 (オフセット) を設定します。各損失プランは、アナログ音声ポートから DSP (A-D) への方向、および DSP からアナログ音声ポート (D-A) への両方向のレベルオフセットを指定します。

このコマンドを使用して、DSP との間で送受信されるアナログ音声信号の必要なレベルを取得します。

例

次の例では、FXO 音声ポート 1/6 に音声ポートから DSP への -3 dB オフセット、および DSP から音声ポートへの 0 dB のオフセットを設定します。

```
voice-port 1/6
 loss-plan plan3
```

次の例では、FXS 音声ポート 1/1 に音声ポートから DSP への 0 dB オフセット、および DSP から音声ポートへの -7 dB のオフセットを設定します。

```
voice-port 1/1
 loss-plan plan6
```

関連コマンド

コマンド	説明
インピーダンス	音声ポート インターフェイスの終端インピーダンスを指定します。
inputgain	PBX または他の顧客構内機器からの入力信号に音声ポートが適用するゲインを指定します。
outputattenuation	音声ポートが PBX または他の顧客構内機器への出力信号に適用する減衰を指定します。

lrq e164 early-lookup

ゾーン経由ルーティングがロケーションリクエスト (LRQ) ルーティングプロセスで処理される前に、E.164 登録済みエンドポイントマッチングを開始するには、ゲートキーパーコンフィギュレーションモードで `lrq e164 early-lookup` コマンドを使用します。デフォルト動作に戻すには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

lrqe164早期検索

いいえ `lrqe164early-lookup`

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンドデフォルト

E.164 エンドポイントの照合は、LRQ ルーティングの最終段階で行われます。

コマンドモード

ゲートキーパー構成 (config-gk)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(20)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

IP-to-IP ゲートウェイ選択のデフォルトのゲートキーパー アルゴリズムは、経由ゾーンプレフィックスと `tech-prefix` の一致に基づいています。 `lrqe164early-lookup` コマンドを使用して、ゾーン経由ルーティング前にE.164照合プロセスを開始し、未登録のエンドポイントをブロックします。

例

次の例では、ゲートキーパーに、LRQ メッセージの受信時に、送信側ゲートキーパーに、利用できる終端エンドポイントがないことを通知させます。

```
Router(config)# gatekeeper
Router(config-gk)# lrq e164 early-lookup
```

lrq forward-queries

ゲートキーパーが、リモートのゲートキーパーによって制御されるゾーンプレフィックスに一致する E.164 アドレスを含むロケーション要求 (LRQ) メッセージを転送できるようにするには、ゲートキーパー設定モードで **lrqforward-queries** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lrqforward-queries いいえlrq転送クエリ

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

ゲートキーパーの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(3)T	このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2500 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、および Cisco MC3810。

使用上のガイドライン

LRQ 転送は、Cisco IOS Release 12.0(3)T で最初に登場した Cisco 非標準フィールドに依存しています。これは、Cisco 以外のゲートキーパー、または Cisco IOS Release 12.0(3)T 以前の Cisco IOS ソフトウェア イメージを実行しているゲートキーパーから受信した LRQ メッセージは転送されないことを意味します。

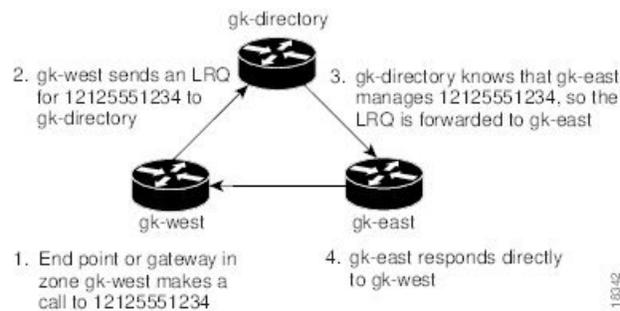
E.164 アドレスが指定されたコールのルーティングは、各ゲートキーパーのゾーンプレフィックス テーブル (市外局番の定義など) の設定によって異なります。各ゲートキーパーは、自身と他のリモートゲートキーパーが制御するプレフィックスのリストを設定します。通話は、一致するプレフィックスを管理するゾーンにルーティングされます。プレフィックステーブルのためのディレクトリサービスが存在しないため、ネットワーク管理者は管理ドメイン中のすべてのゲートキーパーに対して、プレフィックスの広範なリストを定義する必要があります。

このタスクを簡素化するために、ゲートキーパーの1つを「ディレクトリ」ゲートキーパーとして選択し、そのゲートキーパーにプレフィックスの完全なリストと **lrqforward-queries** コマンドを設定します。その後、他のすべてのゲートキーパーに、独自のプレフィックスと、ディレクトリ ゲートキーパーのワイルドカードプレフィックス「*」を簡単に設定できます。

このコマンドは、E.164 アドレスの LRQ メッセージの転送にのみ影響します。H.323-ID アドレスの LRQ メッセージは転送されません。

例

次の例では、1つのゲートキーパーをディレクトリのゲートキーパーとして選択します。次の図を参照してください。



gk-directory の設定

gk-directory というディレクトリ ゲートキーパーで、管理ドメインのすべてのゲートキーパーのすべてのプレフィックスを特定します。

```
zone local gk-directory cisco.com
zone remote gk-west cisco.com 172.16.1.1
zone remote gk-east cisco.com 172.16.2.1
zone prefix gk-west 1408.....
zone prefix gk-west 1415.....
zone prefix gk-west 1213.....
zone prefix gk-west 1650.....
zone prefix gk-east 1212.....
zone prefix gk-east 1617.....
lrq forward-queries
```

gk-west の構成

gk-west というゲートキーパーで、そのゲートキーパーのすべてのローカル管理プレフィックスを設定してください。

```
zone local gk-west cisco.com
zone remote gk-directory cisco.com 172.16.2.3
zone prefix gk-west 1408.....
zone prefix gk-west 1415.....
zone prefix gk-west 1213.....
zone prefix gk-west 1650.....
zone prefix gk-directory *
```

gk-East での構成

gk-east というゲートキーパーで、そのゲートキーパーのすべてのローカル管理プレフィックスを設定してください。

```
zone local gk-east cisco.com
zone remote gk-directory cisco.com 172.16.2.3
zone prefix gk-east 1212.....
zone prefix gk-east 1617.....
zone prefix gk-directory *
```

Zone gk-west のエンドポイントまたはゲートウェイが 12125551234 に発信すると、gk-west はその E.164 アドレスの LRQ メッセージを gk-directory に送信し、gk-directory はメッセージを gk-east に転送します。ゲートキーパー gk-east は gk-west に直接応答します。

関連コマンド

コマンド	説明
lrqreject-unknown-prefix	ゲートキーパーが設定されていないゾーンプレフィックスに対するすべての LRQ メッセージを拒否できるようにします。

lrq lrj immediate-advance

現在のゾーン内のゲートキーパーからロケーション拒否(LRJ)メッセージを受信した後、Cisco IOS ゲートキーパーが直ちにロケーション要求(LRQ)メッセージを次のゾーンに送信できるようにするには、次のコマンドを使用します**lrqlrjimmediate-advance** コマンドをゲートキーパー設定モードに指定します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lrqlrjimmediate-advance

いいえlrqlrjimmediate-advance

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

ゲートキーパーの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(4)T	このコマンドが導入されました。このコマンドは、本リリースの Cisco AS5300、Cisco AS5350、および Cisco AS5400 シリーズをサポートしていません。

使用上のガイドライン

LRQメッセージが単一のパスに沿って複数のゲートキーパーを通じて転送されるネットワークでは、ゲートキーパーから送信される単一のLRQメッセージが、複数のLRJおよびロケーション確認(LCF)応答を要請する可能性があります。LRJ応答が最初に受信された場合、潜在的に不必要なLRQメッセージが次のゾーンに送信され、トラフィックが増加する可能性があります。

この問題を回避するには、以下を実行します。

- シーケンシャル LRQ メッセージを送信するために、**ブラスト オプション**ではなく、**zoneprefix** コマンドを使用してゾーンプレフィックスを設定します。
- **timerlrqseqdelay** コマンドを使用して、パス上の各ゲートキーパーにシーケンシャルタイマーを設定します。

例

次の例では、現在のゾーンのゲートキーパーから LRJ メッセージを受信した後、ゲートキーパーが直ちにシーケンシャル LRQ メッセージを次のゾーンに送信できるようにします。

```
lrq lrj immediate-advance
```

関連コマンド

コマンド	説明
timerlrqseqdelay	連続する LRQ メッセージの時間間隔を定義します。
タイマーlrqウィンドウ	ゲートキーパーが 1 つ以上の未処理の LRQ メッセージに対する応答を収集する時間ウィンドウを定義します。
ゾーンプレフィックス	ゲートキーパーゾーンリストにプレフィックスを追加します。

lrq reject-resource-low

ロケーション要求(LRQ)メッセージの受信時に、送信側のゲートキーパーに、使用可能な着信エンドポイントがないことを通知するようにゲートキーパーを設定するには、**lrq リソースが少ない-拒否-resource-low** コマンドをゲートキーパー設定モードで使用できます。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lrqreject-resource-low

いいえlrqreject-resource-low

構文の説明

このコマンドには引数もキーワードもありません。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

ゲートキーパーの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2500 シリーズ、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3700 シリーズ、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco 7400 シリーズ。

例

次の例では、LRQメッセージの受信時に、利用できる終端エンドポイントがないことを送信側ゲートキーパーに通知するようゲートキーパーに指示します。

```
Router(config)# gatekeeper
Router(config-gk)# lrq reject-resource-low
```

lrq reject-unknown-circuit

未知の宛先回線を含むロケーション要求(LRQ)メッセージをゲートキーパーが拒否できるようにするには、ゲートキーパー設定モードでの **lrqreject-unknown-circuit** コマンドを使用します。拒否機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lrqreject-unknown-circuit
 いいえ **lrqreject-unknown-circuit**

構文の説明

このコマンドにはキーワードも引数也没有ありません。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

ゲートキーパーの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ゲートキーパーは各 LRQ メッセージの宛先回線フィールドをチェックします。フィールドがゲートキーパーにとって未知の回線を含み、この **command** が入力された場合、ゲートキーパーは LRQ 要求を拒否します。このコマンドが無効な場合、ゲートキーパーは回線を考慮せずにエイリアスの解決を試みます。

例

次の例では、ゲートキーパーは LRQ 要求で未知のキャリアを拒否する結果としています。

```
Router(config)# gatekeeper
Router(config-gk)# lrq reject-unknown-circuit
```

関連コマンド

コマンド	説明
エンドポイント回線 ID h323id	Cisco 以外のエンドポイントに回線を割り当てます。
show gatekeeper endpoint circuits	ゲートキーパーのすべての登録済みエンドポイントの情報を表示します。

lrq reject-unknown-prefix

設定されていないゾーンプレフィックスに対するすべてのロケーション要求 (LRQ) メッセージをゲートキーパーに拒否させるには、ゲートキーパー設定モードで **lrqreject-unknown-prefix** コマンドを使用します。ゲートキーパーがすべての着信 LRQ メッセージを受け入れて処理できるようにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

lrqreject-unknown-prefix

いいえ **lrqreject-unknown-prefix**

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンドデフォルト

ゲートキーパーはすべての着信 LRQ メッセージを受け入れ、処理します。

コマンドモード

ゲートキーパーの設定

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(6)NA2	このコマンドが Cisco 2500 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに導入されました。
12.0(3)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.0(3)T に統合されました。

使用上のガイドライン

設定したどのゾーンプレフィックスにも一致しない E.164 アドレス宛ての着信 LRQ メッセージをすべて拒否するようにゲートキーパーを設定するには、このコマンドを使用します。

このコマンドを使用するかどうかにかかわらず、E.164 アドレスがゾーンプレフィックスと一致する場合、以下の条件が適用されます。

- 一致するゾーンプレフィックスがローカルである場合 (つまり、このゲートキーパーによって制御される場合)、LRQ メッセージが処理されます。
- 一致するゾーンプレフィックスがリモートの場合 (つまり、他のゲートキーパーによって制御されている場合)、LRQ メッセージは拒否されます。

このコマンドを使用せず、ターゲットアドレスが既知のローカルまたはリモートのプレフィックスと一致しない場合、デフォルトの動作では、ローカルゾーンの1つを使用して呼び出しへの応答を試みます。このデフォルトの動作がサイトに適していない場合は、ルーターでこのコマンドを使用して、ゲートキーパーにそのような要求を拒否させます。

例

次のゲートキーパーの設定を考慮してください。

```
zone local gk408 cisco.com
zone local gk415 cisco.com
zone prefix gk408 1408.....
```

```
zone prefix gk415 1415.....
lrq reject-unknown-prefix
```

この設定例では、ゲートキーパーは2つのゾーンを管理するように設定されています。1つのゾーンには、408 市外局番のインターフェースを持つゲートウェイが含まれ、2つ目のゾーンには、415 市外局番のインターフェースを持つゲートウェイが含まれます。次に、**zone prefix** コマンドを使用して、ゲートキーパーに適切なプレフィックスを設定します。これにより、これらの市外局番へのコールは最適なゾーンでホップオフします。

市外局番 212 へのコールをこのゲートキーパーにルーティングするように、他のゾーンが誤って設定されているとします。市外局番 212 の番号の LRQ メッセージがこのゲートキーパーに届くと、ゲートキーパーは市外局番の照合に失敗し、メッセージは拒否されます。

これがゲートウェイを持つ唯一のサイトであり、他のサイトでもこのゲートキーパーへのゲートウェイを必要とするすべての通話をルーティングしたい場合は、単に **nolrqreject-unknown-prefix** コマンドを使用して **lrqreject-unknown-prefix** コマンドを元に戻すことができます。ゲートキーパーがアドレス 12125551234 の LRQ メッセージを受信すると、**gk408** ゾーンまたは **gk415** ゾーンのいずれかで適切なゲートウェイを見つけて通話を処理しようとしています。

関連コマンド

コマンド	説明
lrqforward-queries	ゲートキーパーは、リモートゲートキーパーにより制御されるゾーンプレフィックスにマッチする E.164 アドレスを含む LRQ メッセージを転送できます。

lrq timeout blast window

複数のロケーション要求 (LRQ) メッセージを (順次または同時に) 送信するときに使用するタイムアウトウィンドウを設定するには、ゲートキーパーコンフィギュレーションモードで `lrq timeout blast window` コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

lrqタイムアウトblastウィンドウ秒
 言いえlrqタイムアウトblastウィンドウ

構文の説明

秒ウィンドウの継続時間(秒)です。値の範囲は1～10です。デフォルトは6です。

コマンドデフォルト

6秒

コマンドモード

ゲートキーパーの設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(2)T	このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2500 シリーズ、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco MC3810。

例

次の例では、ウィンドウを3秒に設定します。

```
lrq timeout blast window 3
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>gatekeepergw-type-prefix</code>	各テクノロジープレフィックスを担当するゲートキーパーを設定します。
ゾーンプレフィックス	ゲートキーパーのゾーンリストにプレフィックスを追加します。

Lrq タイムアウト シーケンス遅延

ロケーション要求 (LRQ) メッセージをシーケンシャルに送信する際に使用する遅延を設定するには、ゲートキーパー コンフィギュレーション モードで `lrq timeout seq delay` コマンドを使用します。デフォルトにリセットするには、このコマンドの `no` 形式を使用します。

lrq タイムアウト seq 遅延値

いいえ lrq タイムアウト seq 遅延

構文の説明	値遅延の継続時間で、100 ミリ秒単位です。範囲は 1 から 10 です。既定は 5 です (500 ミリ秒または 0.5 秒)。
-------	---

コマンド デフォルト 500 ミリ秒 (500 ms または 0.5 秒)

コマンド モード ゲートキーパーの設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1(2)T	このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco 2500 シリーズ、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 7200 シリーズ、および Cisco MC3810。

例

次の例では、遅延を 300 ミリ秒に設定します。

```
lrq timeout seq delay 3
```

関連コマンド	コマンド	説明
	ゲートキーパー <code>gw-type-prefix</code>	各テクノロジープレフィックスを担当するゲートキーパーを設定します。
	<code>zoneprefix</code>	ゲートキーパーのゾーンリストにプレフィックスを追加します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。